資料４

**第２回　緑整備部会　議事概要抜粋**

日　　時　　　平成２６年８月１２日（火）　１５：１５～１７：１５

場　　所　　　大阪府日本万国博覧会記念公園事務所　第１応接室

議　　題　　　将来ビジョンについて

出席委員等　　　石川部会長、篠﨑委員（５０音順）

尼﨑専門委員、甲谷専門委員、養父専門委員、山本専門委員（５０音順）

内　　容

**【全体について】**

○　整備にかける時間的スパンが不明確。時間軸と整備の方向性を整理すべき。

○　「緑に包まれた文化公園」という表現は、本ビジョンの理念にも踏襲すべき。

○　日本庭園来場者のターゲットを東南アジアの方々としているが、彼らは、日本庭園　より商業施設を好むと思われる。ターゲットと、もともと万博公園が持っている　　資源との整理が必要。

○　複合型エンターテイメント施設について、「緑の中にある」という観点からの魅力創出が必要。

○　公園来場者のターゲットは、時代の経過ともに変化していく。長期を見据えた調査の実施、計画の立案が必要。

**【配布資料の内容について】**

**資料①　公園の骨格となる緑の維持承継（植生の目標(案)）**

○　資料Ⅱ「万博記念公園の｢緑｣の現状」には、万博公園の「緑」の課題が挙げられているが、本資料には、そのためにどうしていくのか（目標、期限）が、反映されて　　　いない。課題を踏まえて「森をどうしたいのか」がわかる資料が必要。

○　注釈に「当面」という表記がある。目標を示すのに、この表記は不適切。

**資料②　水系の保全と活用（案）**

○　万博公園は、水系が分断している。将来ビジョンの目標年次である2020年までに「水の見せ方」をどうするのか、検討していただきたい。

東京都の浜離宮恩賜庭園の「水の見せ方」は素晴らしい。水路を船で移動するとか体験するなど検討できないか。アクティビティと絡める必要があるのではないか。

○　日本庭園と自然文化園の水系をつなげてはどうか。

**資料③関係　交流と創造の拠点となる緑**

○　拠点整備について、それぞれのレベルで具体的なイメージを持つ必要がある。

　　　　また、これら拠点整備の根底には「緑に包まれた文化公園」があるのではないか。

**資料④　広大な広場であるシンボルゾーンから文化を発信（整備案）**

○　シンボルゾーンから発信する「文化」とは、誰に何を発信するのか整理が必要。　　また、その発信で「緑」をどうするのかが不明確。

○　緑の中に立つ「太陽の塔」こそ、文化ではないか。

○　シンボルゾーンの軸については、「過去と未来をつなぐ軸」というメッセージも　　込めることで、より深みが出ると思われる。

○　国立民族学博物館、大阪日本民芸館、日本庭園中央休憩所前の３つの施設前を　　「集いの広場」として大型休憩テントを設置する案となっているが、これらの施設の前庭となる場所であり、テントの設置は好ましくない。

○　シンボルゾーンが周囲から切り離された感じがあるので、周囲とも融合するように

すべき。

○　水と緑で、ひとつの景を作り出すべき。

**資料⑤　日本の文化を体感、感動を生む日本庭園（将来像(案)）**

○　「和」を見るだけでなく、複合的に体験できるという考え方は非常におもしろい。

ぜひ、実施すべき。「和」は文化が体験できることが大事（着付け、お茶、陶芸、　　　　和食等）。

○　「国際観光公園」のターゲットの絞込みが肝要。

○　質の高い、安心で魅力ある日本庭園の位置づけが必要。庭園内を全部歩くのは大変

　なので、各所に質の高い食事や日本庭園の技術などを楽しめる場所が必要（施設、　　プログラム、食事等）。

○　人が一所懸命管理することこそが人に感動を与える。

**資料⑥　外周道路沿いの緑地の運営方針（案）**

○　外周道路沿いの緑の活用、保全にかかる考え方を図面に明記すべき（どのような　施設を誘致し、どのように緑を保全するのか、公園内部の事業や広報との連携、　　　全体的な緑の連続性等）。

○　民間事業者任せにせず、大阪府も運営に関与すべき。

○　外部から様々なご意見があると思われる。その対応策を検討し、具体的な手法に　ついてコメントを記載すべき。

**資料⑦　園内移動手段の確保（案）**

○　大阪大学からのアプローチについて、新宿御苑などは、無料の通過導線を設置して　から利用者が著しく増加した。有料区域にこだわらない考えも必要ではないか。

○　シンボルゾーンを観光バスが周遊するような案になっているが、人が集う場所に　バスが入ってくるのは疑問。

以　　上